

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

学校名		唐津市立高峰中学校	
1 前年度 評価結果の概要	・小中連携による校内研修を通して、明るい職場づくりとしての成果や家庭学習の取組に対する課題を共有し、9年間を見通した学校運営に繋がっている。 ・学力向上について、「唐津の学びスタイル」の重点項目を吟味、設定し、授業改善に取り組んだ。今後、学習の意識化を図るために、教師の役割について再確認し、「つなぐ」、「もどす」活動を取り入れる研究を深める。 ・生徒に「ほめる」ことを意識して教師が指導したことや生徒主体による学校行事の運営を推進することで、生徒の自己肯定感が高まり、人権意識の向上にもつながった。 ・次年度は、健康・体づくりについて、小中連携による「がん教育総合支援事業」の取組を図る。		
2 学校教育目標	自ら求めて動く「高峰っ子」の育成 ～気付き力・考える力・実行する力～ キーワード:主体性、思いやり、協働、自己発信 行動目標:「凡事徹底」当たり前のことを当たり前、「立止照隅」その場に必要の人に		
3 本年度の重点目標	①分かる授業の構築と確かな学力の育成(キャリア教育・学力向上) ②行事における児童会・生徒会活動などの活性化(実行委員会) ③業務改善と働き方改革の推進 ④地域に開かれた学校づくり(授業公開・講演会・各種行事・学校便り等)		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		具体的取組
●学力の向上	○全職員による共通の生徒理解と授業の実践 ○生徒自身が、自分の考えをまとも・発表し・質問を受け止め・より深い思考へと発展させるための授業実践 ○家庭の協力を得ながら、生徒の学習意欲を高め、家庭学習を含めた主体的学習の習慣化	○「授業で興味ある学びが増え、授業が楽しいと感じる」肯定的な回答の割合が生徒70%以上 ○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と肯定的な回答の割合が生徒83%以上 ○「家庭で毎日主体的に学習に取り組むことができている」肯定的な回答の割合が生徒70%以上	・学習の知的好奇心の向上やキャリア教育の充実により進路意識を高め、ICT機器を利用しながら学習意欲を向上させる。 ・校内研修等で「唐津の学びスタイル」や「ラーニングマウンテン」を共通実践し、主体的な学びを推進する。 ・課題の質や量を考慮し、提示の仕方を工夫し、家庭学習を主体的に取り組む生徒を育成する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「友達に対して思いやりある態度で接している」と肯定的な回答の割合が生徒80%以上 ○「自分は先生や友達から認められていると感じる」と回答する生徒80%以上	・道徳科ではローテーション授業に取り組み、互いに授業を参観することで指導力の向上を目指すとともに、学級担任が自分の学級の授業を参観する機会を作り、普段の授業とは違う角度から生徒の新たな一面を発見する。 ・保護者や地域の方と連携した職場体験や産業体験を通して、郷土愛を育む。 ・学校行事等の振り返りを必ず行い、自己理解を深め、他者との協働を通して自己有用感を高め、思いやりや社会性を育む。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80%以上 ●運動部活動や地域クラブ活動への加入率80%以上 ●「健康に良い食事をしている」について肯定的な割合生徒70%以上	・運動部活動や地域クラブ活動への参加を促し、運動習慣の育成を図る。 ・昼休みに体育館開放やグラウンド開放を行い、運動に親しみ基盤づくりを行う。 ・給食だより・保健だよりを発行する。 ・保健体育科担当と食育担当との連携を進める。 ・栄養教諭と連携し食育資料の情報を発信する。 ・教科等と連携した食に関する指導に取り組む。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○職員間の共有を図る手段の工夫	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ○協働的な体制づくりによる組織力の向上。「私は組織に貢献している」という肯定的な割合が80%以上	・定時退勤日の設定と計画的に年休取得ができる職場の雰囲気づくりを行う。 ・部活動練習計画表を活用し、計画的な部活動休養日の設定する。 ・校務のデータ化及びICT活用による時間外勤務の適正化を行う。
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援に関する専門性が向上したと思う」と回答した教員80%以上	・月1回以上の「生活打ち合わせ」等により生徒の情報共有し、対応をする。 ・学期に1回「特別支援教育支援会議」を開催し、学校での様子や保護者の願い等を情報共有し対応する。 ・特別支援に関する研修会を2回以上実施する。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		具体的取組
○がん教育	○研究テーマ「自他の健康と命の大切さに気付き、主体的に考え行動する児童生徒の育成」	○児童生徒、教職員、保護者の実態を把握するためにアンケートを実施する。「がん」の学習は、健康な生活を送るために役に立つ」と肯定的な回答の割合が80%以上	・健康や命の大切さに関する授業を実施する。 ・「がん」に対する理解を深めたり広げたりする授業を実施する。 ・外部講師による講演や授業を実施する。
○特別活動の充実	○生徒の主体的活動の活性化	○「生徒会活動を中心に学校生活を充実させるよう努力している」と回答する生徒85%以上	・生徒実行委員会による学校行事を実施し、自己肯定感を高める。 ・生徒が主体的に取り組む生徒会活動の充実を図る。 ・生徒会本部と連携した専門部活動の充実を図る。